

## 2009年3月期 第1四半期決算発表 アナリスト向けネットコンファレンス質疑応答

平成20年8月1日  
富士重工業株式会社

**Q：「リース取引に関する会計基準の適用」について、営業利益・経常利益・純利益それぞれに約30億円増加の影響が出ているが、その詳細を教えてください。**

A：今期からリース会計が変更になり、所有権移転外リース取引が従来の賃貸借処理から売買処理に変わりました。グループ内の金融子会社でスバル車のリース販売をしておりますが、従来まではFHIから国内ディーラーへ販売したときの売却益と、国内ディーラーが金融子会社に売却したときの売却粗利について、連結調整勘定で在庫未実現の消去という形で利益の減を行っていました。それが今年度からは売買処理に変更となり、リース車両についてもグループ内での売却ということになりました。これは、営業利益増減要因の「売上構成差等」の中の「在庫」に含んでおり、第1四半期特有のものになります。第1四半期以降には発生しません。また、額の多少はあるものの、事前計画に見込んでおりました。

**Q：会計基準の変更により、第1四半期の在庫未実現の増益要因に、逆側のインパクトをもたらしているか教えてください。**

A：これは洗い替え処理ではないので、逆に出ることはありません。

**Q：西欧の販売状況について教えてください。**

A：西欧は今のところ順調に推移していますが、旧OECD諸国が厳しくなっております。今年3月に導入したディーゼル仕様のレガシィは、商品として非常に高い評価をいただいておりますが、軽油価格がガソリン価格を上回っている国もあり、当初の想定よりもディーゼル車を取り巻く環境が厳しくなっていると懸念しております。

**Q：ロシアや中国などの新興国での販売状況について教えてください。**

A：ロシア、中国の販売については引き続き好調に推移しております。但し、ロシアについては、円とルーブルの為替レートでルーブルが弱くなってきており、現地での販売価格に影響が出てきております。対前年では好調ですが、対計画では注視が必要と考えております。一方、中国では好調に販売が推移しており、販売台数計画を期初の12千台から18千台に上方修正しました。

**Q：ディーゼル車とガソリン車ではどちらの利益率が高いのか教えてください。**

A：ディーゼル車とガソリン車を比べると、ガソリン車のほうが利益率は高くなります。ディーゼル車の販売が下がるようであれば、ガソリン車で埋めていきたいと考えておりますが、ディーゼルもガソリンも両方とも、台数を落とさないように取り組んでいきます。

**Q：特別損失に計上されている、工事損失引当金について教えてほしい。**

A：工事損失引当金は航空宇宙カンパニーに関するものを切り出しています。工事区分ごとに、現在の棚卸資産の原価が、既に決まっている売価を越えているものに対して、工事損失という科目で29億円の特別損失を計上しました。内容としては、主に民需関連の複数プロジェクトからなっており、円高の影響やボーイング787の影響は入っていません。

**Q：持分法適用会社に、スバル オブ チャイナ LTD. が加わった影響を教えてください。**

A：この数年間、会計の精度を高めるために非連結の子会社を連結に取り込んでいます。当社の考え方としては、まずは持分法適用会社とし、1~2年後に完全連結子会社にするというスタンスです。今回は7社を持分から完全連結に取り込みました。会計的な影響は、営業利益ベースで約3億円の増益で、内訳は売上構成差等で13億円、販管費で▲10億円となっています。スバル オブ チャイナ LTD. についても、まずは持分法に取り込みましたが、会計的影響は軽微でした。

**Q：SOAとSIAは暦年決算なので、中間決算の上方修正にこの2社の実績を反映させているのか教えてください。**

A：今回の上方修正に、SOA、SIA分は反映させていません。

**Q：他社では、アメリカでの中古車価格の下落で、リースバックの残価損影響が出ているが、富士重工ではアウトソーシングなので影響がないと考えてよいか。**

A：純粋なリースについてはその通りとなります。フリート販売については、アウトバックとフォレスターが主となりますが、再販での損失は今のところ心配ないと考えております。

**Q：期首発表では、SIAの営業利益は減益予想になっていたが、上ブレするイメージと理解してよいか。**

A：米国では、SIAで生産しているトライベッカの販売が苦戦しています。場合によっては下期にトライベッカの生産計画を見直す可能性があり、SIAも下ブレリスクがあると考えています。

**Q：為替について、第1四半期の入金レートと現在の予約状況、第2四半期の為替前提について教えてください。**

A：第1四半期の売上レートは約103円、入金レートは約106円で3円でのアドバンテージがありました。予約状況は2008年度の60%弱、10月末までをフルヘッジしており、レートは4~6月を含め約105円で固まっています。第2四半期については104円50銭くらいを想定しています。

**Q：第2四半期の利益レベルが小さくなるとおもうが、何か特殊要因があれば教えてください。**

A：為替も含め、第2四半期の業績予想修正を行っています。

以上